

びわ湖の水源を歩く旅 高島トレイル(愛発越～行者山)

日時: 11/3-5

メンバー: L)A原、M上

報告:

日本列島を縦に日本海側と太平洋側に区切る中央分水嶺のほぼ中央にある高島トレイル。滋賀県高島市内を全長 80kmにわたり縦断する。

過去、信越トレイル、北根室ランチトレイルを歩き、ロングトレイル好きとしては次ねらうのは高島トレイルだった。3泊4日で踏破を狙ったが装備の見誤りや体力不足などで結果的に完遂はできなかった。



11/3(木) M上さんは前日京都泊。私は前夜東京駅発の深夜バスで京都入り。5時半に湖西線ホームで集合した。

始発のがらんとした車窓からは、右には海のような広大な琵琶湖と古き良き港町風情の街並みが見えた。左はセイトカアワダチソウの黄色がまるでお花畑のように広がっていた。

車内で共同装備の荷分け。M 上さんからフライパンに入った無洗米を受け取るがやたら重い。計画では 2 合 × 3 日分で 6 合のはずだが明らかにそれ以上ある。

あ: ねえ、2 合 × 3 日で 6 合だけどそれ以上ある？

M: ああ。多めに炊いて朝、雑炊にしようと思って。

あ: ちょっと～、そんな時間もつたいないから朝は個食って言ったじゃん。

M: いやあ、大した時間じゃないよお。

あ: ちっ、もう。

1 升はあろうかと思われる米でずっしりと重くなった私のザック。肩に食い込むぜ。

7:01 マキノ駅に着くと予約していたタクシーが停まっていた。タクシーは 15 分ほどでトレイルのスタート地点の愛発越(あらちごえ)のある国境スキー場に到着した。

さあ、靴ひもを締め直し、出発だ。と、思いきや、

M: ちょっと水汲んでくるわ。

あ: え、どこに？ 汲んでこなかったん？

M: まあ、探せばどっかあるでしょう。

あ: う～ん。

ということで 10 分ほど M 上さん待ち。

さあ、気を取り直して 7:35 スタート。草原になったスキー場の急斜面を登る。リフト終点の右側の藪にトレイルの標柱があった。

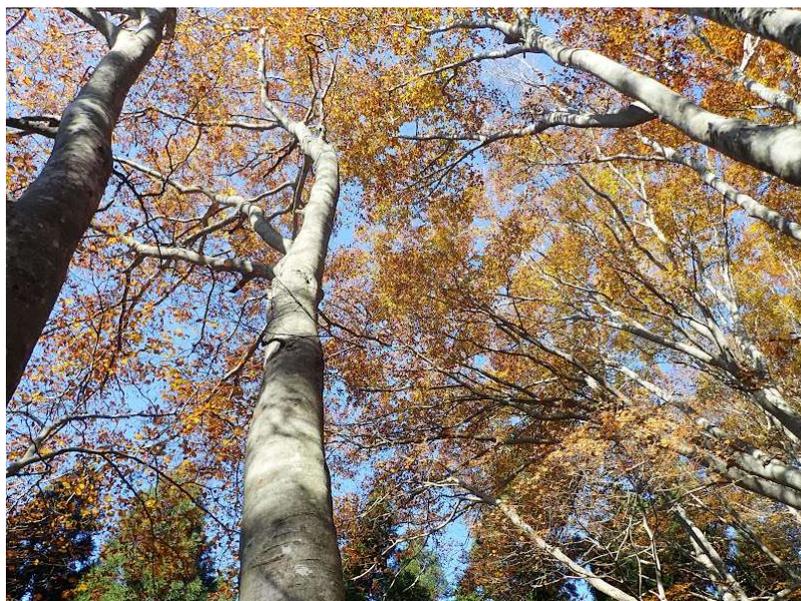
紅葉の登山道を登る。しばらくすると尾根に出て視界が開けた。左に見える琵琶湖には朝霧が厚い雲海となって湖面は見る事がなかった。

トレイルはブナが多く黄葉の森を気持ちよく歩く。高島トレイルのトレードマークである「中央分水嶺高島トレイル」とプリントされた黄色いテープがいたるところにあり迷うことはない。

標高 500 から 900m の山が続き登ったり下りたりを繰り返す。里山のトレイルらしく電波塔や送電線の鉄塔が多く、鉄塔の下は気持ちの良い草地になっている。

敦賀湾が見えた。わお！ 右に日本海、左は琵琶湖で、いままさに日本の中央分水嶺を歩いている実感を感じる。

カサカサと落ち葉を蹴散らしながら静かな森を歩く。鼻唄も出る。



♪山がある 川が見える 君と住んでた町がある
僕は月に 君は星に
キラリとポロリと 光ってあふれてコロがった ♪

朝、琵琶湖にかかっていた雲海は日中になると散り散りになり、山やまを滝雲となって流れていた。遠い地の森歩きだが、いつも行ってる東北のブナ森を歩いているのとあまり変わりがないし、これまで人にも遭わなかったが、黒河峠では地元のハイカーが「今日は雲海で琵琶湖は見えなかった、伊吹山しか見えない。こんな日は珍しい。」と関西弁で話しかけられ、ああ近畿の山に来てるのだなあ、と感じた。

黒河峠はトレイル上、数少ない水場があるところでM上さんが水を汲みに行ってくれた。

私は、明王の禿(みょうおうのはげ)の手前で足が攣ってしまいしばらく歩くことができなかった。足を引きずり、ほうほうのていのおばさんが明王の禿に到着すると、若者たちがヤッホーと楽しそうに連呼していた。若さがうらやましい。

山頂は花崗岩が風化し草木が生えておらず、トレイルの中では独特な頂きだ。岩肌が露出した斜面からは大パノラマが広がっていた。

若者たちの覇気に気圧され、次の赤坂山へ。赤坂山はハイカーで賑わっていた。

栗柄越を過ぎると気持ちのいい眺めのいい広い尾根歩きになる。風に揺れるスキの穂が美しい。琵琶湖の湖岸やマス目になった緑の田畑、メタセコイアの並木道が見下ろせた。車の音も聞こえて標高の低い山を実感する。

大谷山では私たちと同じような荷物を背負った2人組が抜いていった。

16:06 抜土に到着。歩き始めて9時間。今日の泊り場だ。色鮮やかな紅葉がいま最盛期だ。先を行った2人組もここで幕営するようだ。



私たちのテントは林道ゲートを越え大御影山の登山口そばの森の中に張った。平らで落ち葉のふかふか台地だ。

沢で水を汲みながら、

あ: ねえ、今晚ってなに食べさせてくれんの？

M: 言わなかったっけ？ ウナギだよ。

あ: やったー！ じゃあ明日の夜は？ カレー？

M: え？ それは君だろ？

あ: ええ？ 夜3食ともムラPって言ったし計画書もそうなるでしょ？

M: いや、俺は朝だよ。

あ: 朝は時間かけたくないから個食にするって言ったじゃん！ じゃあ、夜の食材は持ってきてないん？

M: 持ってきてないよ。まあ、なんとかなるでしょう。

あ: えええ！ 計画書みてよー。しょうがないな～。じゃあアタシのつまみを明日以降のおかずにするワ。

小さな焚火を興しビールで乾杯。

お米を炊く段階になると、

M: 君の食器貸して。

あ: え? コツヘルの小と中はムラP 担当でしょ。

M: いや、二人分の米炊くなら君の食器がサイズちょうどいいから。

あ: へ? コツヘル小中は?

M: フライパンとお湯沸かし用は持ってきたよ。

あ: えー! なら計画書出したときそう言ってよ〜。

M: 言わなかったっけ?

あ: ちっ。もう〜。

米の量とか食当とか共同食器などお互いの考えのズレ、認識に齟齬があった。念のための再確認が必要だったか。なんか大人げない責任のなすりあい大会だ。

11/4(金) 朝は個食の計画だったが、結局、前夜のご飯で雑炊にすることになり、ちょっと早く起きて M 上さんが作ってくれた。

撤収の際、ガスを振ってみると残り 3 割といった感じだった。今回、計画の段階では中サイズとちびサイズを各 1 個だったが、最近の M 上さんの白峰南嶺の山行を参考にして、ちび 2 で足りるだろうとちびサイズ 2 個に変えたのだった。残りの 2 晩、これで足りるだろうか。

6:07 明るくなるのを待って出発。昨日の 2 人組は 10 分ほど前に発っていった。

朝から急坂だ。はあはあ。ブナの森にオレンジの太陽が昇ってきた。季節を間違えたのかイワウチワが咲いていた。大御影山には大きな反射板があった。

朝は朝日が差していたが徐々にガスがかかってきて寒々とした空気だ。

広くて展望の良い尾根のてっぺんは三重嶽(さんじょうがだけ)だろうか。スキーで滑ったら気持ちよさそうだ。



三重嶽は標高 974m で高島トレイルの中の最高峰となる。白く湿気を帯びたブナの森が幻想的だ。

M: 次のロングトレイルはどこ行こうと思ってる?

あ: 国東半島に行ってみたいと思ってるんだよねえ。仏像の。

M: ああ、いいね。

あ: いろんなルートがあるからトレイルは二日くらいにして、あと観光も兼ねて。由布岳も行きたいし。

M: あそこは(ミヤマキリシマで)山全体が赤くなるっていうしね。

あ: その時季に合わせて行きたいなあ。別府温泉なんかもあるし。

夢がまたひとつふくらんだ。

武奈ヶ嶽。杉林が続く。泣きそうな空だったがとうとうプツプツ落ちてきてやがて雨になった。杉林に入り、ザックカバーを付け雨具を着た。

水坂峠まで残り 200m の標高がなかなか縮まらない。下ったり登ったりを何度も繰り返す。下界に建物の屋根が見えてからもなかなか下界に出ずにイライラする。

15:22 やっと水坂峠。舗装路に出た。当初の計画では次の二の谷山を越え搦谷越(からみだにごえ)に泊まるのだがそこまではあと 3 時間はかかる。途中でビバークするなら水を担がなければならない。

雨に濡れ体力も尽きたし、私の足の外反母趾の豆が潰れたようですれて痛かった。ここで泊まろうか、と口にしたら M 上さんも賛同してくれた。

舗装路を渡り二の谷山への登り始めのルート上に平らな場所があったのでテントを張ることにした。小さな沢で水を取った。逆ルートからの単独のハイカーが来て彼も近くで泊まったようだ。

テントを張りガスを焚いて、雨で冷えたカラダを暖めよう。

今日の夕飯は、私のつまみのブルーチーズと生ハムでチーズリゾットにした。結構おいしかった。夜、今後の計画を見直した。

最終日バスに間に合わせるには、自分たちのペースと体力では計画のルートをこなすのはムリ、ガスが明日の夜まで持たせるにはキビシイ、私の外反母趾のママが潰れキツイ。などなどネガティブ要因を挙げ、明日下山しようとなった。

明日は二の谷山から行者山まで行き、久保所バス停に下山することにした。そうと決まればビールも焼酎も呑みほそう。つまみも出血大放出(ってほどないけど)。

11/5(土) テントの中にヒルがいてびっくり。M 上さんがつまんで外に出してくれた。高島トレイルはヒルやマダニが出るので、この時季にしたのだが、場所によってはこの時季でもいるのか。

朝はタベの残りをあつためた。暖を取ったり、調理にかかったりしてガスは残り少ない。今さらだが、やっぱり中サイズにしておけば良かった。

M「思いのほか、消費が早かったな。君のガスは新品だったのか？」

この期に及んで私に嫌疑がかかったが、

あ「新品です」

6:37 出発。私たちの上の段にテントを張った単独者は昨日、桑原橋から入山したとのこと。なんという速さ。

二の谷山は杉林独特なうっそうと暗くてひっそりとして杉の香りの中にある。

ルートはいったん鯖街道と呼ばれる国道 367 号が走る桜峠に出る。車の往来が激しい国道を少し歩き、ふたたびトレイルルートに入る。取りつきの標柱には小さく「高島トレイル通行止め」の案内の張り紙があった。関電による鉄塔工事のため通行止めとなっていたが、迂回ルートは記されていなかった。

とりあえず行ってみることに。

登り始めてしばらくすると鉄塔の工事現場が出てきたが、工事作業者はおらず通行ができないというわけではなかった。暗黙の了解というか自己責任で通行してください、ということか。

再びトレイルに入る。右には麓の集落が見えた。単調な歩きをしていると、倒木にナメコが。手が伸びたが結構大きくなっていたしナメクジがついていたので採るのは辞めた。

11:40 行者山到着。ここから下界に降りる。ここで高島トレイルとはお別れになる。

次回、いつになるかわからないけど、再度高島トレイルを訪れて、ここからトレイルが再開できるといいな。

モミの木の倒木を避けるように南尾根に乗った。見慣れたトレイルの黄色テープは無くなり、代わりにピンクテープがところどころにあった。うっそうとした杉林の斜面を 50 分ほどで久保所バス停に出た。小さなバス停だ。

高島トレイル前編終了といったところだろうか。M 上さんと握手をした。お疲れした！

M 上さんが自販機を求めてうろうろしたがなかったようだ。

13:08 定刻通りにバスが来た。ワンボックスサイズの小さなバスだった。気のよさそうな運転手さんが、土日は高島市のバスが無料になり、さらに指定の店舗で割引が受けられると言った。なんと♪

バスは終点朽木の道の駅に着き、その後、てんくう温泉のシャトルバスに乗る。温泉で汗を流し、M 上さんは肉厚な鯖ずし、私はとんかつで祝杯を挙げた。

この日は安曇川の宿に泊まり打ち上げをした。

11/6(日) 朝風呂につかり、安曇川駅から京都駅に出て、新幹線で帰京した。

高島トレイル公式 HP によると、全行程は 12 分割されており、それによると今回私たちが歩いた愛発越～行者山は 8/12 といったところです。

次回は残りの横谷峠～桑原までの 4/12 コースを歩ければと思います。

ムラPとの山行、いろいろ生意気な発言もあり気を悪くしたかと思いますが、私は楽しかったです。どうかお許しいただければと思います。そしてまた遊んでくださいね。

11/3(木) 晴れ 7:35 愛発越(国境スキー場)-9:06 乗鞍岳-13:29 赤坂山-16:06 抜土

11/4(金) 曇り時々雨 6:07 抜戸-7:36 大御影山-13:19 武奈ヶ嶽-15:22 水坂峠

11/5(土) 晴れ 6:37 水坂峠-8:10 二の谷山-9:21 桜峠-11:40 行者山-12:28 久保所 BS

11/6(日) 晴れ 安曇川～京都～帰京

おしまい

記:A原